

伴侶動物と畜産動物の架け橋に

「新潟動物ネットワーク (NDN)」代表 岡田 朋子



新潟動物ネットワーク (NDN) は、犬猫の里親探しを軸にした動物愛護団体ですが、伴侶動物から畜産動物へと活動を広げてきました。誰でも安心して、この「難しい」テーマに関わることができる、というメッセージをお送りします。

小さな愛護活動からスタート

私が動物愛護活動を始めたきっかけは、今から30年ほど前に東京の地球生物会議 (ALIVE) という動物保護団体が作った、「動物園の動物は幸せなの？」という1枚のチラシです。それまで動物の立場になって考えたことがなかったので、大きな気づきをもらいました。「犬抑留所」に足を運ぶようになり、多くの犬や猫が殺処分されていることに衝撃を受けました。当時、新潟県では年間1万ほどの犬や猫が収容され、



私たちが創った「猫の手募金」のきっかけになった多頭飼育の現場 (2007年、新潟市内)

その多くが殺処分されていたのです。一人ひとりができること、やりたいことを実現する場として、2001年にNDNを立ち上げました。問題は山積みで、気は焦るものの何をしたら良いのかさっぱりわかりません。1匹の命を救うこともできず、最初は保健所に古毛布を届けることから始めました。冷暖房設備のない施設では、寒さが理由で亡くなる犬や猫もいたのです。

たとえ殺処分される命でも、少しでも不安なく過ごして欲しい。活動の始まりは、ささやかな動物福祉でした。

収容される動物たちを見ているうちに、社会の問題が見えてきました。

犬や猫の里親探しをする中で、野良猫の繁殖制限への理解が進んでいないために、多くの子猫が生まれていることを知り、会で助成金制度を作って手術費用の補助を始めました。

そのうち、子どもたちへの教育が大切だと気づき、学校訪問をスタート。不幸な過去を持つ犬や猫を連れて行き、どうしたら良いかを考えてもらいます。中越地震や東日本大震災では、ペット防災にも取り組みました。徐々に社会は変化し、社会の一員として保護犬や保護猫を迎える気風が醸成されていきました。

「ペットだけが大切な？」

長く活動するうちに、少しずつ、私の中に「ペットだけが大切な？」と、モヤモヤする気持ちが膨らみ、そんな時に、ある本をプレゼントされました。タイトルは「仕切られた動物観を超えて」。実験動物、展示動物、畜産動物、伴侶動物、野生動物の各分野で活躍する方のシンポジウムをまとめたもので、どれも暮らしに深く関わり、区別しているのは人間自身だという気づきになりました。

活動の幅を広げるために、2021年に会の中に「アニマルウェルフェア班」



を立ち上げます。移動ふれあい動物園への問題提起や、動物展示施設のボランティア、アニマルウェルフェアに配慮した畜産農家を見学したり、屠畜に関する仕組みを学んだり……。そのうち、いろいろなことが見えてきました。さっぽろ自由学校「遊」のオンライン講座に参加するようになったのもこの頃です。

犬猫と違い、畜産動物は1頭の命を救うことでは問題は解決しません。で

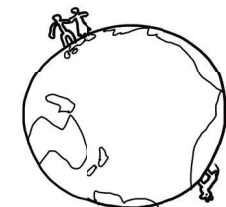


は、何ができるのでしょうか。学ぶうちに、まず私自身に変化がありました。肉や魚をどれくらい摂るのか、摂らないのか？ 適正な価格とは何か？ 卵1個70円が本当に高いのか……。

食の楽しみ方も変わりました。できるだけ動物たちの犠牲が少なく、環境に負荷をかけないことが豊かな食生活だと考えるようになったのです。

地球温暖化と食の問題や、地球の反対側で起きていることが、目の前の食につながることもわかってきました。未来への責任の中で自分の食をどう考えるか。これは、苦しみではなく、大いなる楽しみです。

学校訪問活動では新しいプログラムを作りました。子どもにもわかりやす



5つの自由 心ころ と からだ

栄養

飢えと渇きからの自由
新鮮な飲み水と適切な量と質の食べ物はありますか

食べ物を採るのは動物たちの大事な仕事です。わざと取りにくいエサ入れにしたりがあみエサを選ばないようにあげるとお腹だけでなく気持ちも満たされます。

健康

ケガや病気からの自由
ケガをしたり病気になるための体調管理やもしもの時は治療してもらえるでしょうか

一羽一羽ずつ体調管理をして病気やケガを防いで生涯健康に過ごせたいですね。

心ころ

恐怖やストレスからの自由
肉体的にも、精神的にも、不安や恐怖、過度なストレスを与えていませんか

強いストレスがかかると、心も体も弱気になるようになります。問題を見極めて改善すること、思いやりの気持ちで動物たちに接することが大切です。

環境

不快からの自由
暑すぎたり寒すぎたり湿度が湿っていたりせず身体を休められる過ごしやすい環境でしょうか

好きなときに快適な場所で過ごすことは、身体と心の健康を保つのに必要です。

行動

自然な行動をする自由
それぞれの動物本来の行動ができるようになっているでしょうか

羽や手足を自由に動かしたり、穴を掘ったり、身づくろいをしたり……群れで暮らす動物は仲間との存在が必要です。

この「5つの自由」をもとに動物たちが生まれながら死ぬまでの状態がより良くなるように工夫・改善することがアニマルウェルフェア（動物福祉）の向上です。

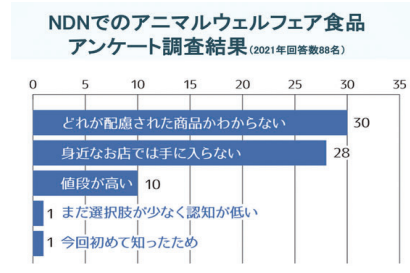
NDNが作成したアニマルウェルフェアのリーフレットより

く学べるリーフレットも作成。かわいらしいイラストで「5つの自由」を描き、犬や猫と牛や鶏が手を繋ぎ、私たちのまわりにはたくさんの命があり、支えられていることを伝えようと思いました。

アニマルウェルフェアに配慮された畜産品を揃えたスターセットの販売も行ない、大きな評判となりました。日頃から動物愛護に関心が深い方は、きっかけさえあれば大きな理解者になります。

「持続可能な社会」という大きな課題に向き合うために、エシカル（倫理的）消費やオーガニック（有機）、ア

ニマルウェルフェアといったキーワードに配慮した商品を扱うマルシェも開催しています。犬や猫のかわいらしい商品のすぐ隣には平飼いの卵が売られています。どちらも同じ命であることの気づきになれば、と願っています。



「動物愛護」と「動物福祉」の融合を

アニマルウェルフェアを学ぶ際、よく耳にするのは、動物愛護と動物福祉の違いです。しかし、NDNの活動をしていると、行き着くところは同じように感じます。

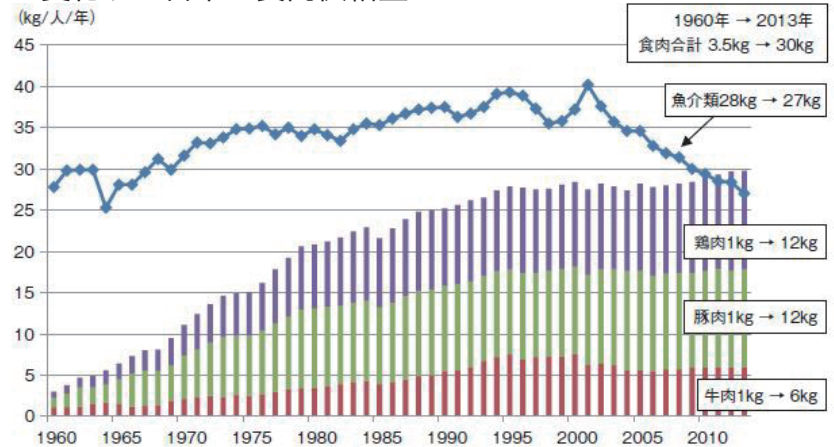
動物愛護活動では、かわいそうな命、不幸な命を減らしたいという「殺処分ゼロ」に向けての取り組みがあります。しかし、実際にはそれが全てではありません。野良猫や多頭飼育崩壊など、生きていても福祉が守られていない問題に活動はシフトしつつあります。「動物愛護管理法」の改正（2021年施行）

では、ブリーダー（繁殖業者）の飼養管理にもさまざまな数値規制が盛り込まれました。

法律の対象になっている畜産動物に対しても、「愛する気持ち」が根底にあるからこそ、動物福祉の必要性を論じることができるでしょう。そうでなければ、単なる「科学」で終わってしまいます。

私たちは、もっと気軽に、当事者として、「食としての命」に向き合うことができると思います。そのためには、目の前の一歩から。自分自身ができることを、是非、始めてみてはいかがでしょうか。

変化する日本の食肉供給量 50年間で9倍に増加



資料:農林水産省「食料需給表」

注:重量は純食料ベース

出典:農畜産業振興機構 HP

※新潟動物ネットワーク（事務局：新潟市東区北葉町 13-4）

TEL：090-2844-4881（10時～17時）HP <http://ndn2001.com/>